

学校法人八王子キリスト学園 八王子幼稚園

自己点検・評価および学校関係者評価

2023年度

建学の精神 八王子キリスト学園八王子幼稚園は、プロテスタント(福音主義)のキリスト教精神による幼児教育を行い、聖書の証しするキリスト・イエスの愛の教えとわざに基づき、互いの個性を尊重し、信頼と友情を築き上げることを通して、共に生きる喜びを知らせ、幼児の健やかな成長を助長することを目指す。	
教育目標	神さまを愛し、自分を愛し、周りの人を愛する。 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」(聖書)
《幼稚園方針》	キリスト教の精神に基づき、ひとりひとりのお子さまを「神と人から愛される」人として大切にしています。お子さまたちが未来に向かって生き生きと喜びを得ながら人生を歩むために必要となる力の根っこを育てることが幼稚園の使命と自覚しています。
①神の愛を知る	毎日、祈りや讃美歌。週に一度、礼拝。聖書の言葉を通して神さまがどんなに一人ひとりを愛されているかを伝えます。
②自分を受け入れる	大切なひとりとして受け入れられることによって、人生の基礎を築き、その後人生において夢や希望をもち、人間関係を築けるようになります。
③友達と共に過ごす	自分を受け入れることによって、他の友達も受け入れるようになっていきます。友達と一緒に何かを作っていく土台をつくり、社会における人間関係を築くようになっていきます。
④探求し、創造する	自由な遊びを通して、一人ひとりが意欲と主体性をもって心を動かし、探求し、想像力を膨らませながら、何かを創造していく力をつけていきます。
⑤正しい判断と責任感を育む	何が正しいことか悪いことを考えるようにします。自分の役割、責任を持つことで、責任感も育むようにします。

2023年度重点項目

より深い学びにつなげるため話を聴く力を身につける。
教育の質の向上のために研修への積極的な参加をする。
特別支援のための体制を整備する。

八王子キリスト学園八王子幼稚園 自己点検・自己評価

A: 十分達成されている
B: 達成されている
C: 取り組まれているが、成果が十分ではない
D: 取り組みが不十分である

1. 教育課程の編成と実施に関する点検・評価

項目	内容	集計結果				評価	理由
		A	B	C	D		
教育目標について	(1) 建学の精神は、全教職員で共通理解を図っているか。	4	2			A	年度始めに研修で共有している。
	(2) 教育目標は、全教職員で共通理解を図っているか。	4	2			A	
	(3) 教育目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	3	3			A	
指導について	(1) 幼稚園教育要領に基づく指導援助が適切に行われているか。	3	3			A	工夫しているがまだまだ十分ではないので引き続き話し合いを重ねつつ、今の子供達の姿にあったものにかえていく。園庭や周辺に自然が少ない分園庭の花や木のみを保育に取入て工夫している。保育のお振り返りを職員で共有して保育に活かしている。保育カウンセラーの助言を活かし、環境設定を工夫した結果、子どもたちの姿に変化があった。
	(2) 環境の構成を意識した指導の方法や過程を工夫しているか。	2	2	1		B	
	(3) 自然を感じられるような園庭を整備しているか。	2	2	2		B	
	(4) 教材・教具を適切に活用しているか。	1	5			B	
	(5) 結果を基に、指導の改善に努めているか。	2	4			B	
	(6) 保育カウンセラーの助言を保育に活かしているか。	6				A	
行事・カリキュラムについて	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。	2	4			B	毎回行事ごとに反省し、良いところは残し変えるべき点話し合っていきたい。行事についてその都度振り返り子供の姿を共有しながら、主体的な行事になるよう見直している。ジムでは専門講師が、幼児の年齢や興味に合わせた指導の方法を工夫して実践している。
	(2) 行事のねらいを計画や実施にいかしているか。	2	4			B	
	(3) 幼児にとって自主的・主体的な活動にしているか。	1	4	1		B	
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	3	3			A	
	(5) 体育遊び(ジム)は幼児の心身の発達を促す活動となっているか。	4	2			A	

2. 教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する点検・評価

項目	内容	集計結果				評価			
		A	B	C	D				
経営・組織	体制	(1) 能率的・合理的な運営組織となっているか。	2	3	1		B	保育の体制は子どもの様子によって手厚く配置している。作りものなど、パート職員と共有して行うことで正規の負担を軽減している。仕事の分担は人によって、負担の大きさが違うのでもっと引き受けられるようにしていきたい。	
		(2) 協働できる体制となっているか。	2	4			B		
		(3) 職員の配置は適材適所か。	2	4			B		
		(4) 仕事の分担は適切か。	1	1	4		C		
	運営	(1) 打ち合わせ・会議は適切かつ効率的か。	2	4			B		保育だけでなく園に関わる出来事、クレームなど皆で考えを出し合い共有している。
		(2) 教職員相互が協力・助言を惜しまず園の運営に関わっているか。	2	4			B		
	学年経営	(1) 学年目標は、教育目標に基づいて設定しているか。	2	4			B		それぞれの年かりなどを皆で共有、見直しをしている。異年齢での交流ある行事などは皆で共有、話し合いをしている。
		(2) 学年目標を基に、一人ひとりにあった保育を実施しているか。	2	4			B		
		(3) 学年目標に基づいた活動のねらいはクラスの実情を踏まえて適切に設定しているか。	2	4			B		
		(4) 異年齢児間の活動のねらいは適切に設定しているか。	2	3	1		B		
(5) 資料(諸記録)の作成と保存は適切か。		2	4			B			
保健・安全指導	(1) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	1	5			B	散歩などにあまり出掛けられず、子どもたちも歩き慣れていない。教師間での連携も春の研修などで共通理解できると、安全に道路を歩くことができると思われる。避難訓練は適切に実施しているが、様々な場面での対応についてパート教員とも共有していくことが必要と思う。保険について(嘔吐・怪我対応)に付いての学びの場があるといい。		
	(2) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のための指導を適切に行っているか。	1	5			B			
研究・研修	(1) 園内研修の計画・運営は適切か。	2	3	1		B	研修等、自分に必要なものを受ける事ができ、そのために必要な休みもとやすい。園内での研修では、今後の幼稚園の保育に必要な講師をお呼びし学ぶことができる。研修内容について考えを出し合い、それをもとに職員が学びたいものを研修に取り入れて学び保育に活用している。		
	(2) 各種研究会、研修会、講演会への参加体制の充実を図っているか。	2	3	1		B			
	(3) 各種研究会、研修会、講演会での内容を園内に還元しているか。	1	4	1		B			
つ情報に	(1) 幼児・保護者・教職員に関する個人情報適切に取り扱っているか。	4	2			A	重要な個人の情報のある書類は鍵のかかる所にあり、一部の職員しか開け方を知らない。		
	(2) 各表簿は適切に作成・処理されているか。	3	3			A			
施設・整備	(1) 園舎・園庭の施設・設備の点検を定期的に行っているか。	1	4	1		B	訓練を受けたり、園でマニュアルを作り取り組んでいる。大そうじで、教材などを整理したり、園庭を整えてから遊ぶようにしている。不審者訓練を実施している。		
	(2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	1	5			B			
	(3) 不審者等に対する訓練を行っているか。	2	2	2		B			
	(4) 掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	2	3	1		B			
家庭の連携と	(1) 保護者の理解を得るために参観日等を設定しているか。	5	1			A	園や保育への理解のため、保護者と子どもの様子などを共有し、一人ひとりの育ちの支援や子供理解につなげている。特別な配慮が必要な人も多く丁寧に行っている。		
	(2) 園だより、手紙等の内容は適切か。	3	3			A			
	(3) 特別支援を要する場合、家庭との連携状況は適切か。	2	5			B			
	(4) 幼児の興味・関心に基づく地域社会・その他の施設と交流をしているか。	1	2	2	1	B			
子育て支援	(1) 子育て支援として、保護者あるいは親子を対象とした活動は充実しているか。	2	3	1		B	(2)は地域の実践を踏まえているかわからないが、幼稚園に通うお母さんたちの働き方にはカバーできていると思う。プレ保育や園庭開放で園と地域をつなげているだけでなく、卒園児とのつながりも持てるよう、行事を工夫している。保育カウンセラーも入り相談しやすい環境ができている。		
	(2) 地域の実情を踏まえ、預かり保育を行っているか。	1	3	2		B			
	(3) 教職員による育児に関わる子育て相談の機会は充実しているか。	2	3	1		B			
	(4) 医療機関、療育機関(臨床心理士)等の専門機関と連携を図り、保護者に必要な情報を提供しているか。	4	2			A			

3. 今後取り組むべき課題

課題	取り組み
教育目標の共通理解	行事のあり方やクラスの枠組みを変化させようとしているので、教育目標の見直しも必要だと思う。
教職員の資質向上	園外研修は参考になった。今後も期待する。パートの先生も含め配慮の必要な子どもへの対応の話し合いの機会を定期的を持つ。保護者対応等の次代のニーズを踏まえて保育している意識も必要だと思う。子ども主体の保育のあり方について学びを深め保育をすすめる。様々な子供の特性について学び、一人ひとり似合う保育支援について学ぶ。
行事・カリキュラムの評価と改善	行事を見直し、これまでと違う所についてはよく振り返りしつつ、保護者の反応を見ながら次へと活かしていく。行事の内容が、今いる園児の姿に合っているか。より豊かな育ちに繋げるために検討していく。保護者に理解してもらえるように結果を丁寧に伝える。時期や内容など、これからは反省を活かして柔軟に対応していきたい。ジムでは年少児に関しては入園間もない時期から整列などして運動遊びに取り組むことが難しいことから、1学期のうちは体育講師との親睦を深める集団遊びを楽しむ形に変えたい。
教職員の連携	パートの先生方とシェアリングする時間や機会をもう少し作れるといい、クラスを超えての交流も多く持てた(教職員の連携がとれていた)。保育カウンセラーからの助言をもとに環境設定など工夫して子どものより豊かな育ちに繋げることができた。保護者が保育カウンセラーに相談しやすい工夫はしていきたい。(子育て座談会など)
施設・整備の点検と更新	園庭環境の改善。老朽化している遊具もあるので、専門の目で点検してもらいたい。栗の木や砂場など改善されたが、老朽化が目立つ道具がまだある。
地域・学校間交流	今年度まや保育園とも運動会の運営で協力し合えたので、同じ地域にある保育施設と協力体制を取っていきたい。散歩に出かける機会を増やす。

4. 学校関係者評価

- ・町内会でも震災対応は課題となっている。幼稚園でも対策はしていると思うが、評価項目に震災対応のことをもう少し入れてはどうか。
- ・職員配置の手厚さが伺えた。子どもとずっと相談しやすい先生がいるという安心感は大切。
- ・町内も少子高齢化が進んでいるので、自由遊びの保障やジム(体育遊び)による運動遊びの指導や保育カウンセラーの設置など、園の特徴をしっかり示していけるといいと思う。
- ・ICT化で保護者としても便利になった反面、教師と話す機会は減ったので、園(教師)がどのような思いで保育をしているのか感じにくくなった。保護者負担の軽減を園として考えてくれていることは有難いが、一方で園に関わりたい(知りたい)保護者が園と交流できる機会は残せるといいと思う。
- ・評価の「C、D」にチェックを入れた場合には、「理由」の欄に記述するような形式にできるといい。(自筆)
- ・子どもの育ちを見守れる専門性をもった保育カウンセラーがいるのは保護者にとってもいいと思う。

2023年度 八王子幼稚園 教育水準向上支援事業 取組報告書

●保育カウンセラー

近年、核家族化の影響もあり子育てに悩みを抱える保護者が増加している。今までは教師が相談にのってきたが、相談内容がより専門性が求められる内容に変わってきていることもあり、2022年度5月より臨床心理士を1名を「保育カウンセラー」として雇用している。月に2回程来園し、子どもたちの様子や保育内容を見て教師に助言をしたり、希望する保護者の面談も実施している。(1家庭40分程度)

→カウンセラーに保育環境の工夫や子どもへの関わり方の配慮の助言を受けることで、教師も保育に活かすことができ子ども姿も変わっていった。クラスとして子どもたちが集団生活を以前より負担なく送れるようになってきた。

保護者面談でお子さんの育ちを細かく共有することで、園と家庭の両輪でお子さんの育ちを支えていく意識は高まった。

●ジム (体育あそび)

週に1回、各クラス30分～45分、外部の専門講師が来園し体育遊びを行う。幼児期に様々な体の動きを経験していくことが、生涯に渡って人の健康増進に繋がることから、数十年前からこの活動は行っている。

→今年度も子どもたちがジムの時間を楽しみ、体育あそびに取り組む様子が見られた。外部講師も数十年前から指導にあたっている方で、幼児期に経験しておくといい体育あそびを、子どもたちの意欲と集中力を伸ばしながら指導して下さっている。

施設関係者評価会より…

教職員の手厚い配置に加え、臨床心理士の支援もあるのは、園として魅力ある特徴だと思うので、長年取り組んでいるジム (体育遊び) と併せて地域の未就園の家庭にアピールできるといい。